

れば、いみじくうれしがりてもてかへりけり、其次の日、又ひとつの晝をもてきて、これにもうたかきて、たまへとてせたむる、うち見れば、九郎義經が一の谷にさかおとしするかたかきたるなり、落霞やがて筆とりて、

峯よりもさかおとしして、武者によぶ木の葉をちらすこがらしの風、とよみければ、かのをのこ心のうちよろこばぬさまにて、しりぞきけるが、とばかりありていりきたり、これに歌をよめとて、又ひとひらのゑをいだす、孔明たかどのに琴ひきて、仲達をまどはすところをかきけるなり、落霞かうがへもせで、

松がえに琴の音たて、武者によぶ木の葉をちらす峯のこがらし、とかいつけたるときに、このをのこいろをかへていふやう、落霞ぬしはおなじき歌をみたびよみ給ふ、かうさまにては、おのれ人のもとにおくらんとするによろしからず、ねがはくはあらたによみて給はれとぞいひける、落霞わらひていふ、御身つねにものをしみし給ふ癖ありて、ひとひらの紙あればはなうちかみて、日にほして、又もちひ、そをほしては、又はなかみ、三たび四たびもちひて、まかしてのち、かはやにもてゆき給ふよしき、およびぬ、われも又それにおなじびとつ、歌をみたび四たびにももちふるなりとぞこたへける、かの人はかほうちあかめはらだ、しきさまにかへりしが、その、ちはふつにきたらさず、落霞はへつらふこ、ろなくて、おもしろき人なりかし、

〔花月草紙〕^五ある吝嗇なるもの、ことしはことにもつひやしぬとて、および折りてかぞへたてぬ、まづ春より秋まで、かのいたづきによてのめる薬もかばかりなり、それにか、る事もありしなど、かぞへつ、いふをつくぐととき、ゐし人がいとさがたきがうへに、君が身につきたるものひとつあり、是をいかで費といはんといへば、なになるかと、ふ薬のみ給はずば、かくけふなげき事もえいひ給はじ、かくいひ給ふは、薬のめぐみなれば、それにむくい給ふを費と心得給